

6.

教育プロジェクト

1) 専任・特任教員担当講義

2) 2018 年度博士前期課程修了者・
修士論文要旨

▶ 2018 年度 IGS 専任・特任教員担当講義

IGS 専任教員・特任教員は、お茶の水女子大学大学院（人間文化創成科学研究科）と学部において多彩な講義を担当し、次世代を担う研究者の育成に努めている。

《人間文化創成科学研究科博士後期課程ジェンダー学際研究専攻》

申琪榮（准教授）

〔科目名〕 比較政治論（前期）

〔主題と目標〕 博士後期院生を対象に研究発表と論文執筆を目的とするゼミ。参加者は事前に担当教員に連絡を取り、受講に関して話し合うことが求められる。

〔科目名〕 比較政治論演習（後期）

〔主題と目標〕 博士後期院生を対象に研究発表と論文執筆を目的とするゼミ。参加者は事前に担当教員に連絡を取り、受講に関して話し合うことが求められる。

《人間文化創成科学研究科博士前期課程ジェンダー社会科学専攻》

申琪榮（准教授）

〔科目名〕 ジェンダー基礎論（前期）

〔主題と目標〕 ジェンダー社会科学専攻の基本講義として、ジェンダーの視点・方法の多様性とその有効性を提起する。

〔科目名〕 フェミニズム理論の争点（前期）

〔主題と目標〕 フェミニズムやジェンダー研究の初心者を対象に、ジェンダー概念の基礎的知識を含め、1990 年代以降フェミニズム理論の新たな発展期以降取り上げられてきた重要な理論的争点を理解することを目的とする。授業では、受講生たちの関心に合わせて日本の現状を考える上で有効な理論を中心に日本語及び英語文献を読んでいく。2018 年度前期は「Gender, Sexuality, and Violence against Women and Minorities」をテーマに文献購読、ゲスト講義、グループワークの実施を行う。

〔科目名〕 フェミニズム理論の争点・演習（後期）

〔主題と目標〕 前期に続き、フェミニズムやジェンダー研究の基礎的概念や知識を理解した上で、1990 年代以降フェミニズム理論の新たな発展期以降取り上げられてきた重要な理論的争点に取り組む。授業では、受講生たちの関心に合わせて有効な理論を中心に日本語及び英語文献を読んでいく。

〔科目名〕 国際社会ジェンダー論演習（前期）

〔主題と目標〕 指導教員と個人的な指導のもとで国際社会における諸問題をジェンダー視点から分析する手法を身につけることを目的とする。

大橋史恵（准教授）

〔科目名〕 フィールドワーク方法論（前期）

〔主題と目標〕 AIT のプログラム（本報告書 107～113 頁参照）に参加する学生を中心として、ジェンダーの視点から社会調査の方法論について学ぶ。

〔科目名〕 国際移動ジェンダー論（後期）

〔主題と目標〕 グローバリゼーションの下でのジェンダー秩序の再編と人の移動/労働の関係について批判的に議論する。

板井広明（特任講師）

〔科目名〕 国際社会ジェンダー論演習（後期）

〔主題と目標〕 AIT（本報告書 107～113 頁）参加者に向けて、将来 NGO や国際機関で国際協力の仕事につくことや、国内外を問わず男女共同参画推進諸機関で働くこと、あるいは研究者としての力を培うことを希望する人材の育成を意図して、国際社会におけるジェンダーの問題を、途上国支援や持続可能な教育などを実践している現場の声を聴きつつ、理論的に検討するのが主題である。異文化におけるジェンダー概念や平等概念、フェミニズム的視点の有効性を再検討し、各自のジェンダー理解をブラッシュアップすることが目標である。

《人間文化創成科学研究科博士前期課程共通》

ジャン・バーズレイ（特別招聘教授）

〔科目名〕 男女共同参画国際演習 II 「Chasing Madame Butterfly」

〔主題と目標〕 This class explores Madame Butterfly narratives from the late 19th century to the present. We examine fiction and stage productions, but also discuss art and photography, fashion, and major cultural events. The goals of this course are: a) to understand how notions of gender, race, and nation are constructed in cultural productions b) to familiarize you with Humanities approaches to gender analysis; c) to hone your skills in academic research, writing, and presentation.

《学部》

申琪榮（准教授）

〔科目名〕 比較ジェンダー論

〔主題と目標〕 ジェンダー視点で日本や国際社会の問題を比較的に考察する。文献、視聴覚資料、グループワーク、ゲストスピーカーの講義などを含む多様な方法で批判的視点を培うのを目的とする。

大橋史恵（准教授）

〔科目名〕 グローバル化と労働

〔主題と目標〕 ①グローバル化という現象について知見を深める。とりわけジェンダーの視点からこの現象を批判的に考察する。②グローバル化のなかで、日本および世界の諸地域において、女性と男性の労働がどのように変化してきたのかを理解する。

〔科目名〕 グローバル経済とジェンダー（LA 科目）

〔主題と目標〕 ①経済のグローバル化が世界各地にどのような影響をもたらしてきたのかを、ジェンダーの視点から検討する②フェミニズムが経済のグローバル化をどのように批判してきたのかを学び、自らの知的実践に基づいてその意義について考察する

《英語によるサマープログラム 2018》

申琪榮（准教授）

〔科目名〕 Special Lectures in Humanities and Sciences I 「Gender and Political Representation」

〔主題と目標〕 This course is given by five teachers and takes the gender problems from various viewpoints. Gender, distinguished from sex, is now emerging as very important agenda in many disciplines such as economics, psychology, social philosophy, law, political sciences and so on. Especially, in a globalizing era of today, gender problems have become transnational and global phenomena that requires to be analyzed through novel approaches. You will understand that gender is a core factor that constitutes our societies and that we cannot understand today's and future world without keeping an eye open to gender problems

▶ 2018 年度博士前期課程修了者・修士論文要旨

IGS 所属教員の指導のもと、2018 年度は以下の院生が博士前期課程（ジェンダー社会科学専攻 開発・ジェンダー論コース）を修了した。

【氏名】高橋 侑里

【指導教員】申 琪榮（IGS 准教授）

【修論タイトル】9.11 以降に製作されたハリウッド映画における白人男性の表象分析

【要旨】

2001 年 9 月 11 日の同時多発テロという未曾有の出来事を経験したアメリカが、国家を再構築していく時代において、世論形成に大きな影響力をもつ映画が描き出した白人男性はどのようなものであったか。『ワンスアンドフォーエバー』『父親たちの星条旗』『戦火の馬』の 3 作品の主人公たちを分析することで、ハリウッド映画における白人男性の表象を明らかにする。

【氏名】林 美子

【指導教員】申 琪榮（IGS 准教授）

【修論タイトル】女性労働者へのセクシュアル・ハラスメントの実態と対策に関する考察

【要旨】

男女雇用機会均等法にセクシュアル・ハラスメントに関する事業主の義務が盛り込まれたのは 1997 年であった。以来 20 年がたつが、いまだ深刻な被害が続いている。それは、セクシュアル・ハラスメントの実態がまだ十分に解明されておらず、社会の認識や法制度、被害者救済のあり方との間にギャップがあるのではないかという問題意識のもと、セクシュアル・ハラスメントの被害者及び支援団体に聞き取り調査を行い、実態の解明を目指すとともに、法制度や被害者救済の仕組みのあり方について検討した。

【氏名】張 穎

【指導教員】申 琪榮（IGS 准教授）

【修論タイトル】中国の主流インターネットメディアにおける「ドメスティック・バイオレンス（DV）」に関する報道のジェンダー分析—「劉洲成 DV 主張事件」を中心に—

【要旨】

中国における DV あるいは家庭内暴力に対して裁判所や警察は、「法律は家庭に入らず」「家族のプライバシーの尊重」を理由に介入してこなかった。しかしインターネットの普及により、DV 問題もネットメディアにより多く報道され注目されるようになった。本研究は蔵国仁のメディアフレーム理論を用いて、劉洲成 DV 主張事件におけるネットメディア報道についてジェンダー分析と考察を行う。

【氏名】Aerin Elizabeth Lai Jia Qi

【指導教員】棚橋 訓（IGS 研究員／お茶の水女子大学教授）

【修論タイトル】Masculine Body-making in Japan: The Embodied Narrative Identities of Dieting and Exercising Young Men

【要旨】

本研究は身体化的ナラティブ分析を通じ、日本人男性が食事制限と運動によりいかに男性的自己アイデンティティ（masculine self-identity）を構築するのかに焦点を当てる。東京都内の男子大学生にインタビューを行い、集めたデータをミード（Mead）のシンボリック相互作用論とリークル（Ricoeur）の物語的自己同一性（narrative identity；物語の自己アイデンティティ）を組み合わせ、ダグラス・イジ（Douglas eazy）の再解釈を利用し、分析を行った。